

基調報告

母親の子育て否定感増加の実態と課題

—「幼児の生活アンケート調査」結果をもとに—

ベネッセ教育総合研究所
研究員 野崎 友花

報告の目的

1. 経年比較調査をもとに、現在の子育て世帯の実態と課題を捉える。
特に、母親の子育て否定感増加の実態や、
子育てサポートの実態と課題について明らかにする。
2. 本報告で示した結果をもとに、
後半のパネルディスカッションにつなげる。

【議論内容】

母親の子育て「否定感」が増えている要因はなにか。
働く母親の子育て肯定感を高めるためにはどうしたらよいか。

報告内容

1. 調査概要
2. 時代の変化からみえてきた母親の姿
3. 調査結果のポイント



1. 調査概要

「幼児の生活アンケート調査」とは？

■ 調査の目的

少子化や共働き世帯の増加などの社会環境の変化の中で、子どもの生活や、保護者の子育ての実態や意識がどのように変化したのかを、経年比較を通して明らかにすること。

■ 調査の特徴



①

27年間の変化がわかる

1995年～2022年まで、約5年ごとに実施。変化を捉えられる調査。

②

大規模なサンプリング

各回2,000～4,000名の方にご協力いただいていた。大規模のため信頼性が高く、さまざまな属性の比較ができる。

③

多岐にわたる内容

幼児の生活時間、保護者の意識など多岐にわたる項目を扱っており、実態を把握できる。

調査概要

【調査テーマ】

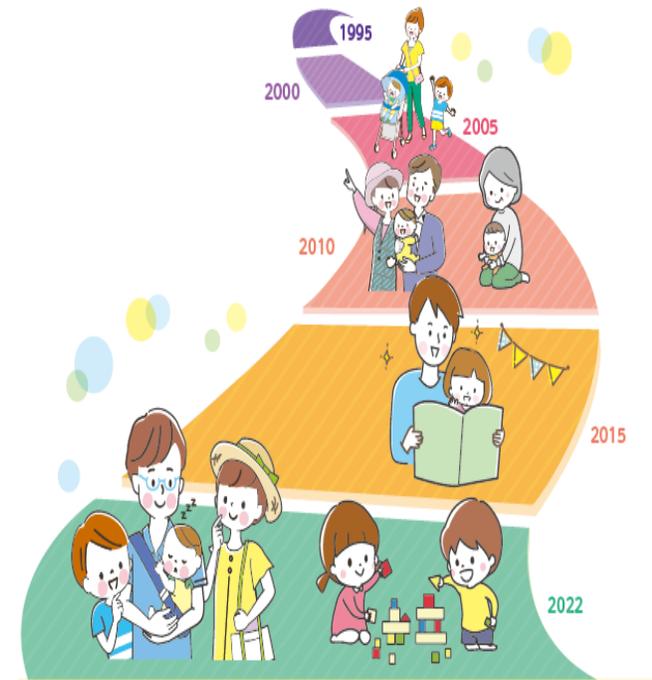
乳幼児の生活の様子、保護者の子育てに関する意識と実態

【調査方法】

第1回～第5回は郵送法
第6回はWEB調査法

【調査時期】

第1回調査	(95年)	1995年2月
第2回調査	(00年)	2000年2月
第3回調査	(05年)	2005年3月
第4回調査	(10年)	2010年3月
第5回調査	(15年)	2015年2～3月
第6回調査	(22年)	2022年3月



- 第6回は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2022年に実施した。
- 2022年の調査時期は、対象地である首都圏において緊急事態宣言の発出や、まん延防止等重点措置がとられる期間ではなかったが、再び感染拡大が懸念されていた。

分析対象者

首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）に住む、1歳6か月～6歳就学前の幼児をもつ母親

※今回の分析対象は、1歳6か月以上

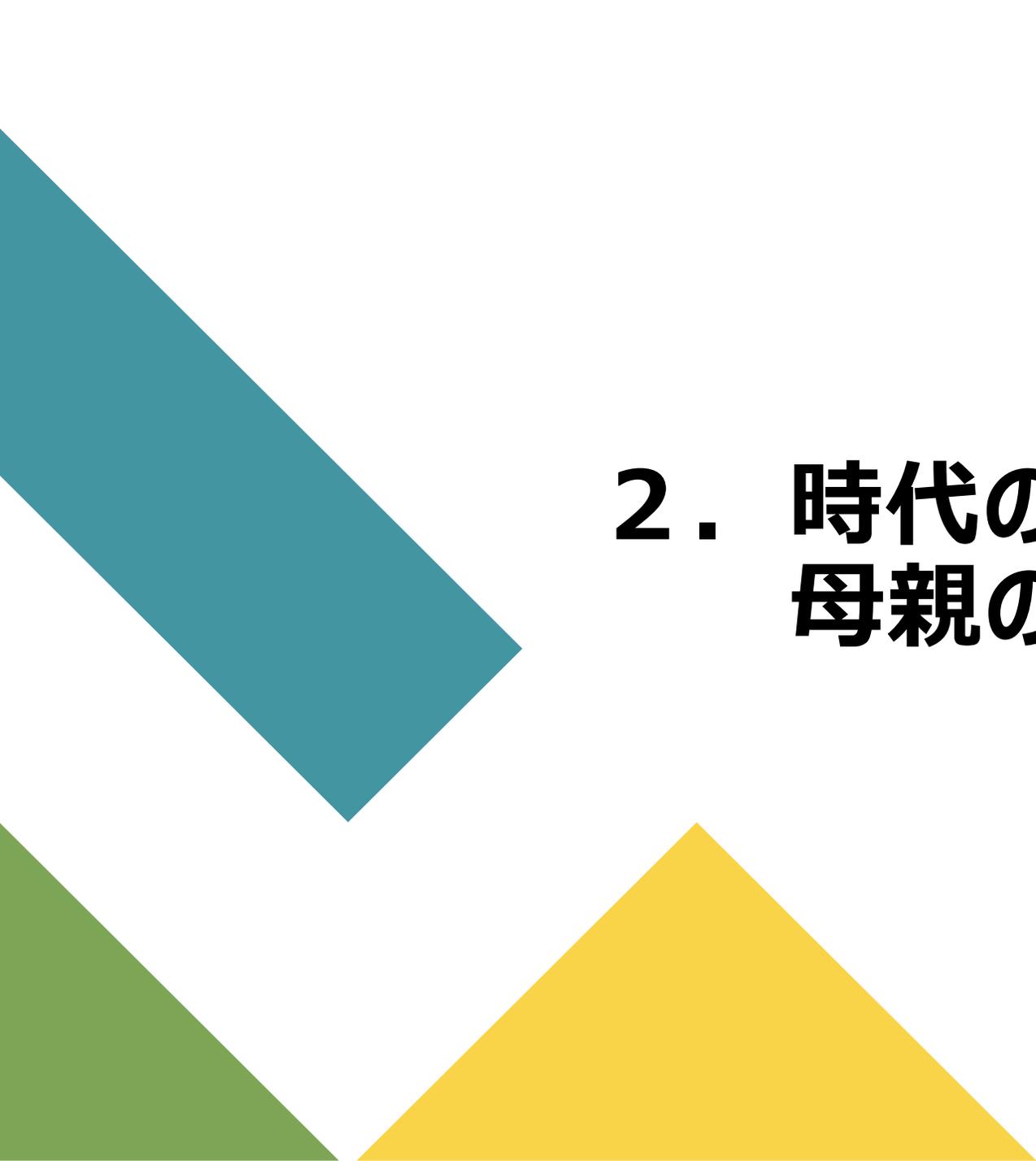
経年調査	調査年	性別	年齢 0歳児	1歳児			2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	
				月齢不明	1歳前半	1歳後半						
第1回	95年	男	—	—	—	55	222	151	176	110	89	1,659
		女	—	—	—	69	228	152	201	104	102	
第2回	00年	男	—	—	—	88	239	122	127	125	124	1,570
		女	—	—	—	83	232	124	96	104	106	
第3回	05年	男	160	12	163	150	369	161	159	150	137	2,258
		女	164	11	163	150	361	172	148	172	129	
第4回	10年	男	149	—	128	142	237	267	280	236	255	2,839
		女	170	—	145	123	242	270	281	258	248	
第5回	15年	男	138	—	141	165	253	272	284	307	330	3,287
		女	130	—	142	140	311	322	297	322	284	
第6回	22年	男	155	—	155	155	310	310	310	310	310	3,410
		女	155	—	155	155	310	310	310	310	310	

【サンプル抽出とウェイトの利用】

- 企業保有のモニターリストより、子どもの年齢（6か月ごとの13区分）、性別（2区分）、都県（4区分）に分けて抽出。
- 分析において、データの精度を高め、経年での比較を可能にするため、比推定を用い、調査対象の属性別構成比を現実に合わせた。比推定で用いるウェイトは、子どもの性別と年齢別に、4都県の人口推計に基づいて作成した。

【公的統計との比較】

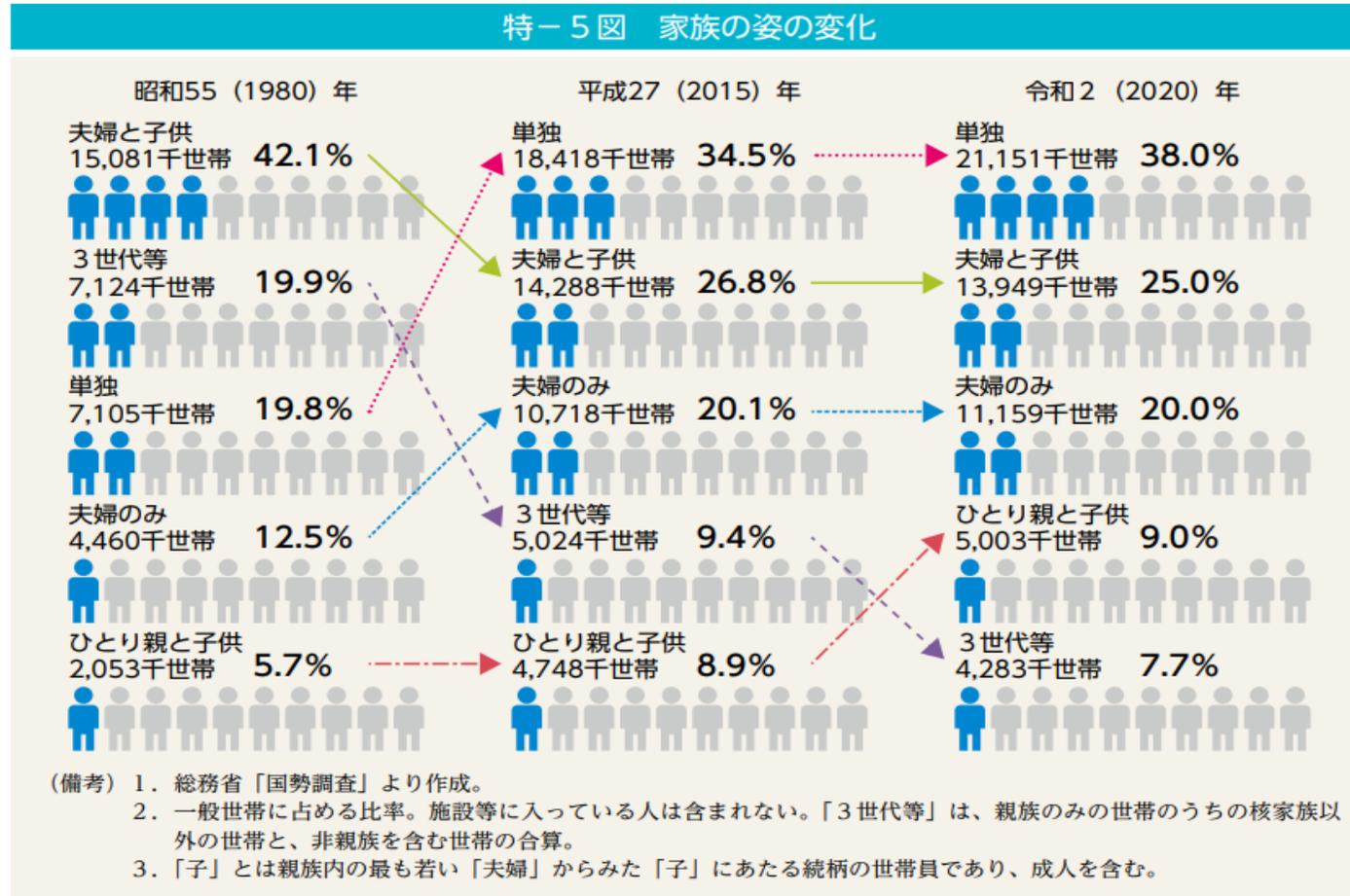
- 母親の最終学歴、世帯年収、母親の就業状況について、公的統計と比較したが対象の母集団と大きなずれは見られない。



2. 時代の変化から見えてきた 母親の姿

家族の姿は大きく変化している

1980年以降、夫婦と子どもの世帯・3世代世帯は減り、単独世帯、夫婦世帯、ひとり親世帯は増えている。



出典：「男女共同参画白書 令和4年版」p.11

https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r04/zentai/pdf/r04_tokusyu.pdf

子育て世帯を取り巻く環境は大きく変化



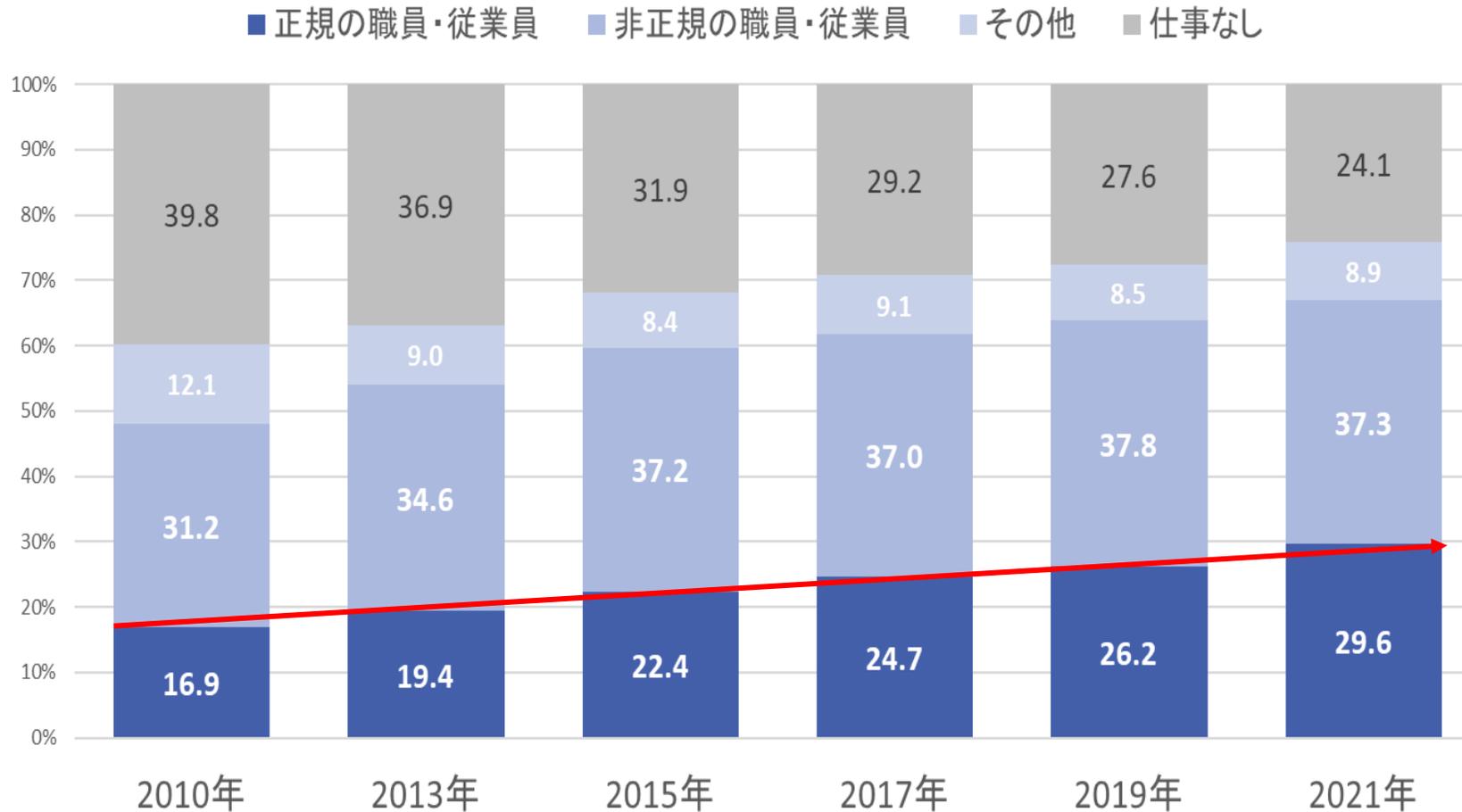
【調査対象者の基本属性の変化】

共働き世帯、保育園児の増加、四年制大学を卒業した母親の増加

- 母親の有職率 95年調査 21.4% → 15年調査 40.2 % → 22年調査 44.6%
- 保育園の就園率 95年調査 10.4% → 15年調査 28.8 % → 22年調査 40.6% (認定こども園6.4%)
- 母親の四年制大学卒業者 00年調査 15.1% → 15年調査 33.5% → 22年調査 43.9 %

(参考) 母親の就業率は上昇している

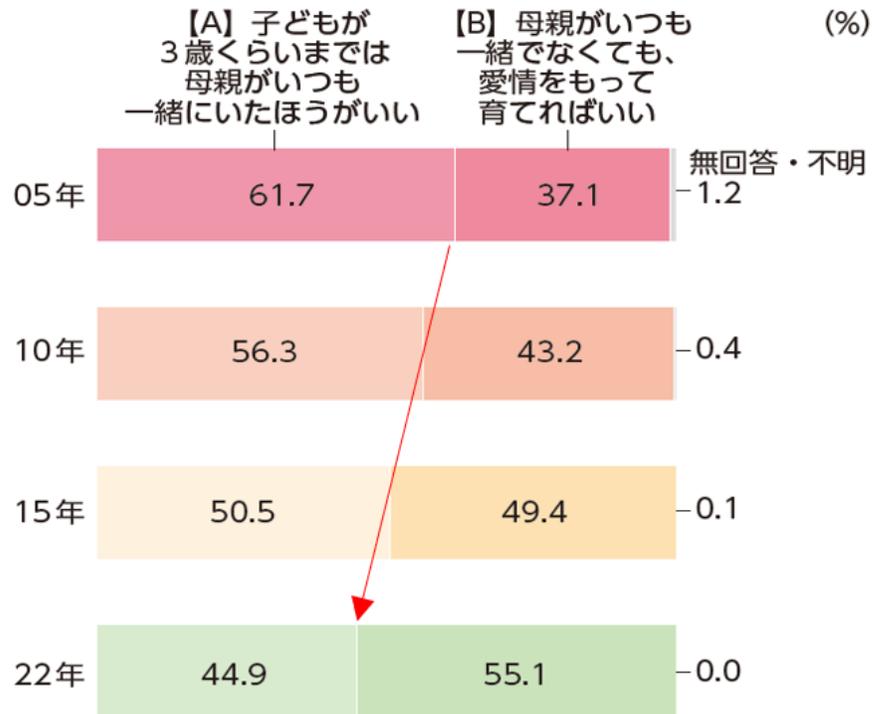
18歳未満の子どもをもつ母親の就業率は上昇続く。
特に「正規の職員・従業員」の伸びが大きい。



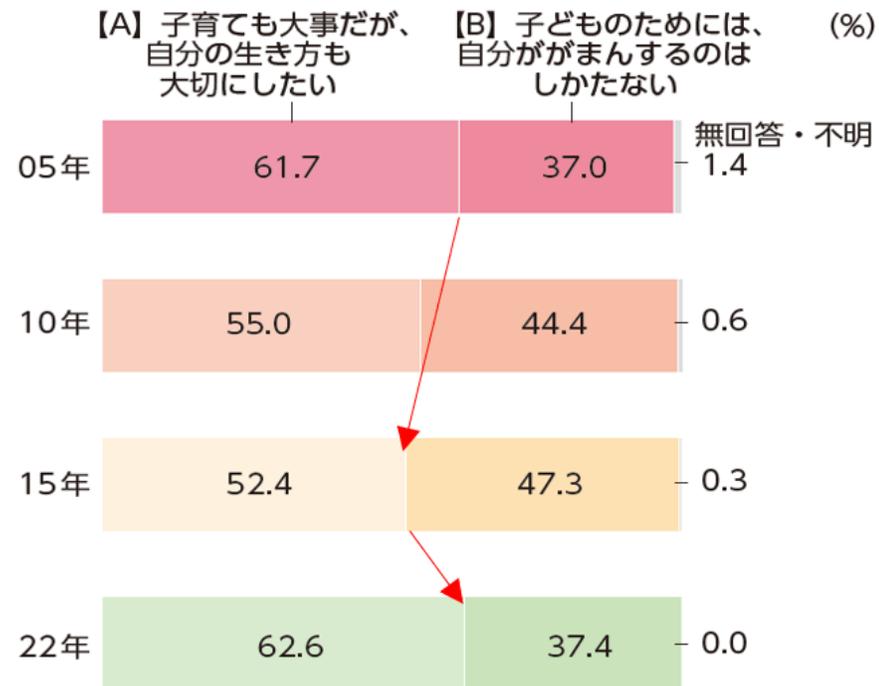
母親の子育て観の変化

母親の子育てに対する役割意識が変わりつつある。
「子どものために自分がかまふしかない」が減り、
「子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」と回答した比率が増えている。

3歳児神話（経年比較）



子育てと自分の生き方のバランス（経年比較）



※2005年からたずねている項目。



3. 調査結果のポイント

3. 調査結果のポイント

結果①

母親の子育てへの感情

- 子育てへの肯定的感情は減り、否定的感情が増えている
- 特に、働く母親の育児負担感や不安感が増えている

結果②

父親のサポート

- 平日の子育て分担・家事分担は、共働き世帯でも母親分担が多い
- 父親が悩みを聞いてくれる家庭は、母親の否定的感情は軽減

結果③

子育てサポート

- 「母親の友人・知人」「祖父母」から教育やしつけの情報を得ることが減っている
- SNS中心に子育て情報を収集している
- 母親が家を空けるとき、子どもの面倒を見てくれる人・機関が減少

結果①

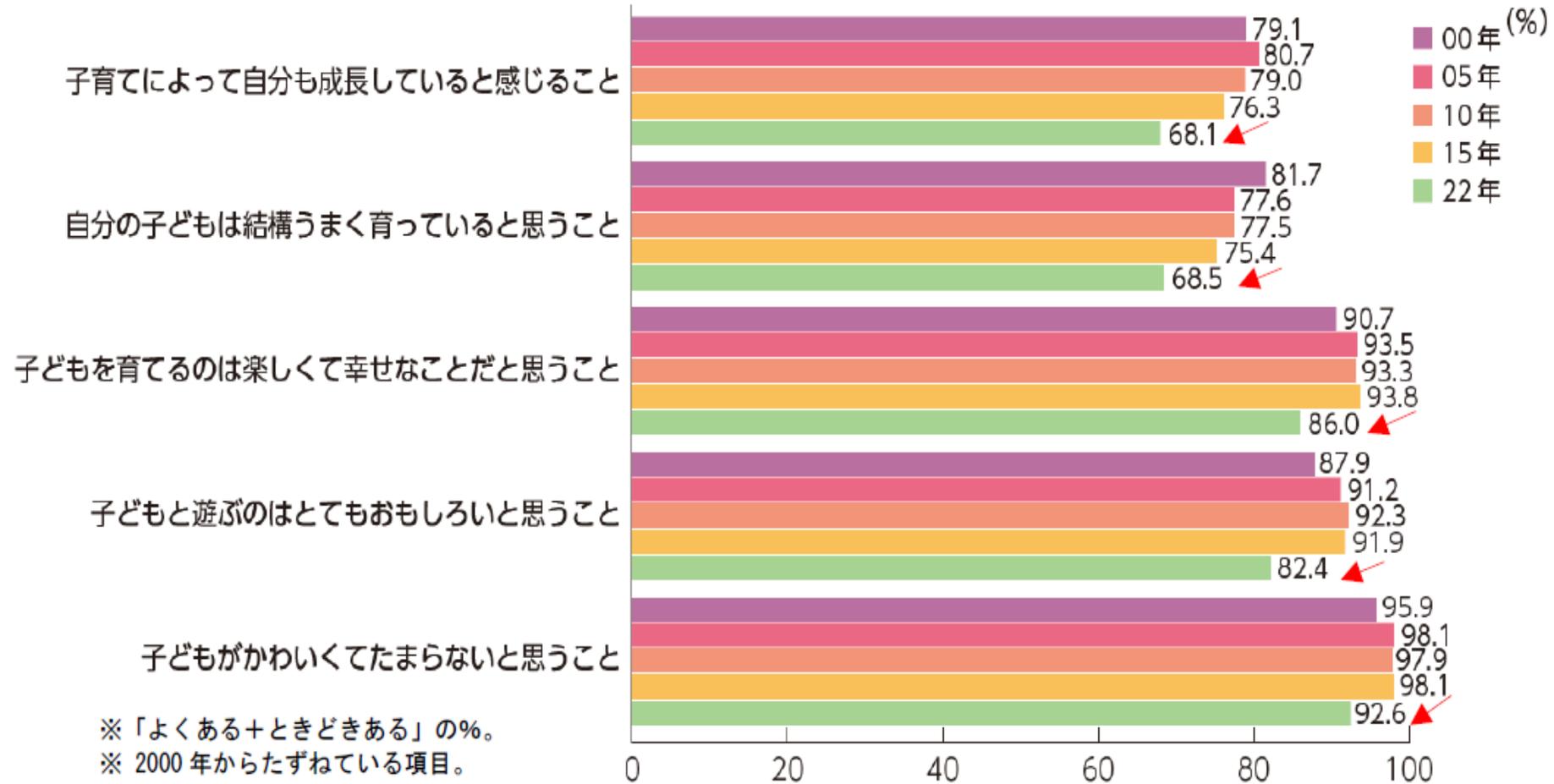
母親の子育てへの感情

- 子育てへの肯定的感情は減り、否定的感情が増えている
- 特に、働く母親の育児負担感や不安感が増えている

結果① 子育てへの肯定的感情

子育てへの肯定的感情の比率はどの項目も高いものの、前回に比べて減っている。

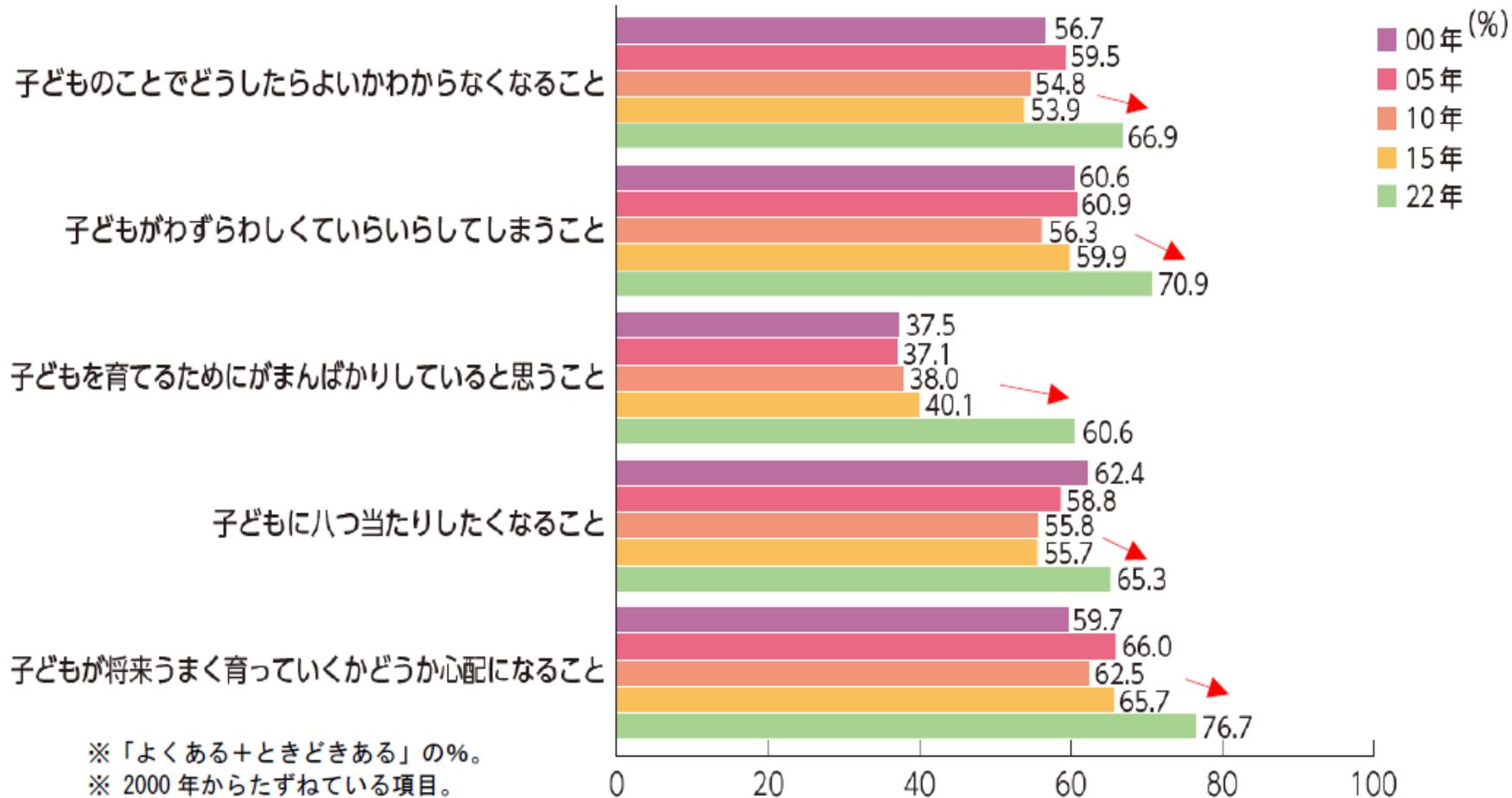
子育てへの肯定的な感情（経年比較）



結果① 子育てへの否定的感情

子育てへの否定的感情が増えている。
特に、「どうしたらよいかわからない」「がまんばかりしている」が大幅に増えている。

子育てへの否定的な感情（経年比較）



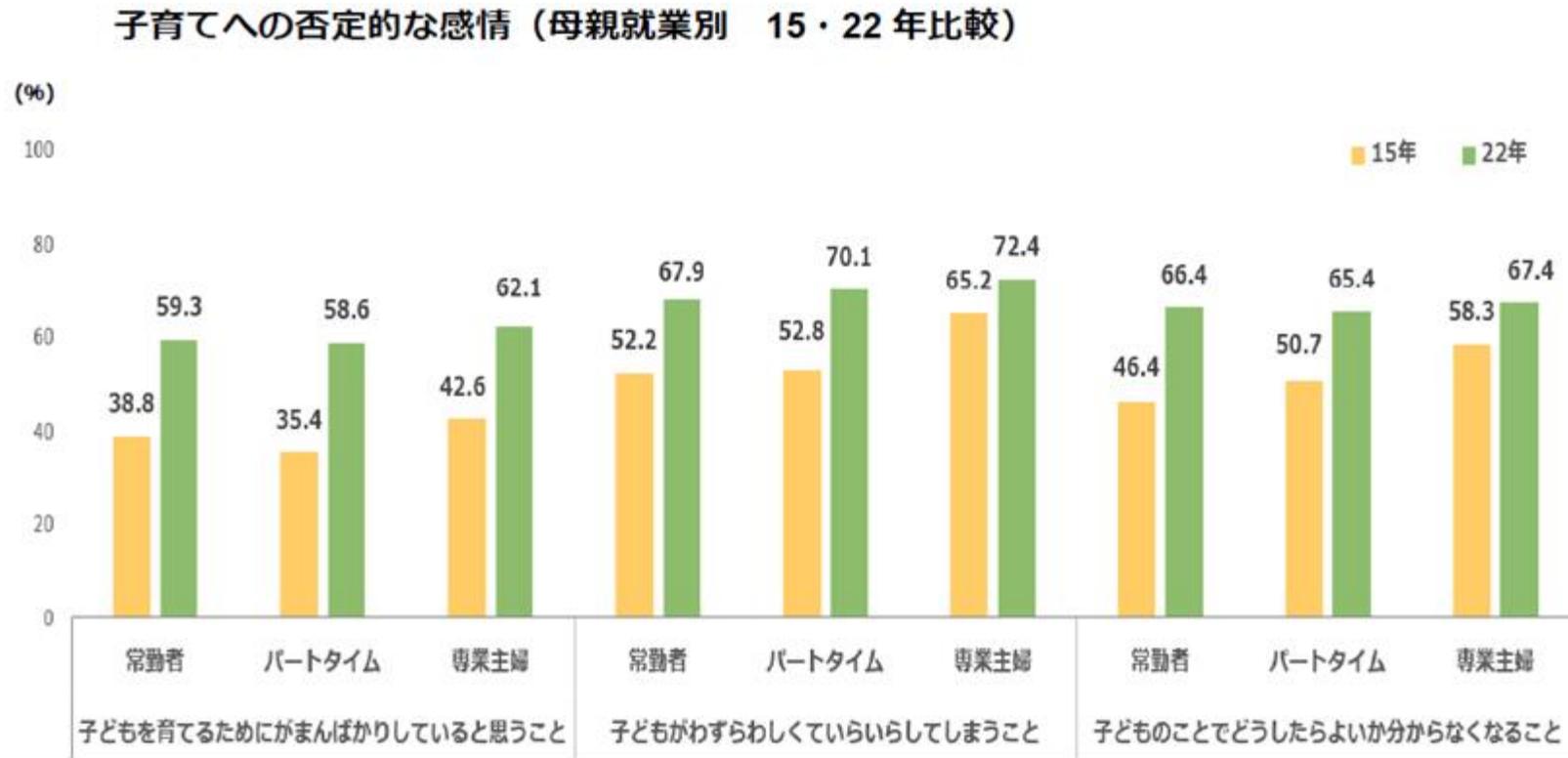
結果①

母親の子育てへの感情

- 子育てへの肯定的感情は減り、否定的感情が増えている
- 特に、働く母親の育児負担感や不安感が増えている

結果① 母親の就業別にみた子育てへの否定的な感情

特に、働く母親の育児負担感や不安感が増え、
従来高かった専業主婦との間の差が縮まり、就業形態による差はほとんどなくなった。



※「よくある+ときどきある」の%。

※ 2000年からたずねている項目だが、15年と22年のみを図示。

結果②

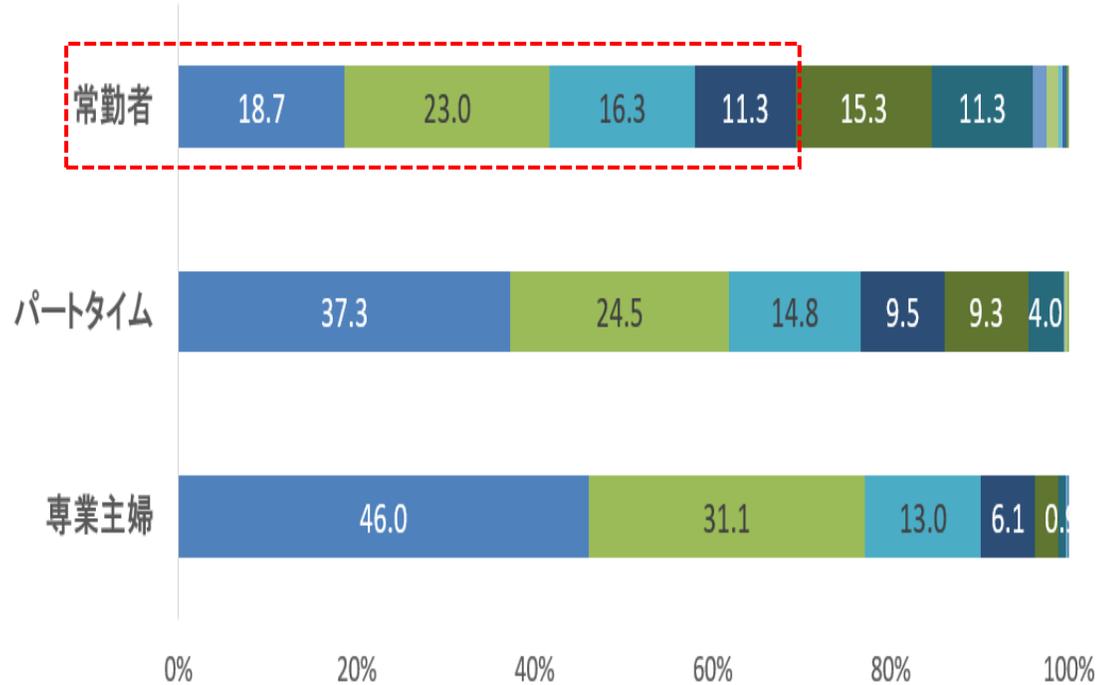
父親のサポート

- 平日の子育て分担・家事分担は、共働き世帯でも母親の分担は多い
- 父親が悩みを聞いてくれる家庭は、母親の否定的感情は軽減

結果② 平日の子育て・家事分担（母親の就業別）

常勤者：平日の子育て・家事分担における「母親7割以上」は全体の約7割を占める。
共働き世帯でも、母親の負担は多い

平日の子育て分担(22年)



平日の家事分担(22年)

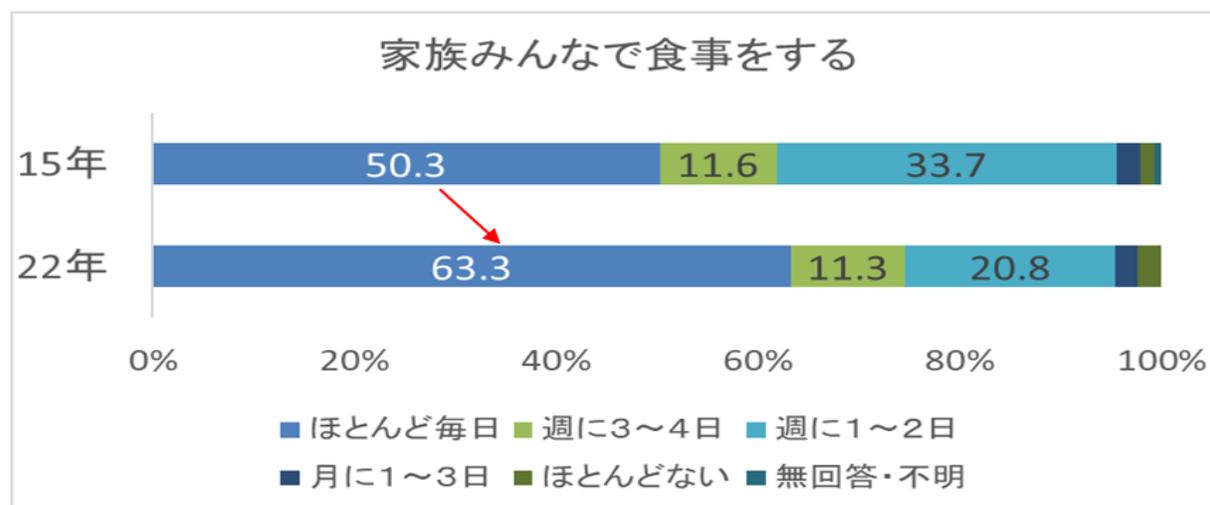
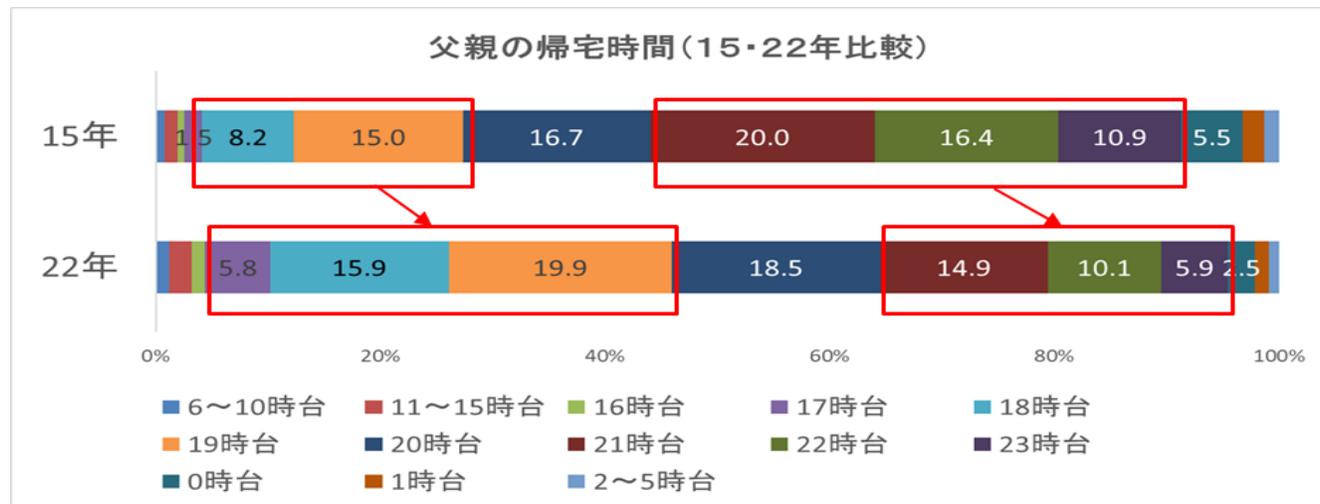


■母10割:父0割 ■母9割:父1割 ■母8割:父2割 ■母7割:父3割 ■母6割:父4割 ■母5割:父5割
■母4割:父6割 ■母3割:父7割 ■母2割:父8割 ■母1割:父9割 ■母0割:父10割

■母10割:父0割 ■母9割:父1割 ■母8割:父2割 ■母7割:父3割 ■母6割:父4割 ■母5割:父5割
■母4割:父6割 ■母3割:父7割 ■母2割:父8割 ■母1割:父9割 ■母0割:父10割

(参考) 父親の帰宅時間は早まっている

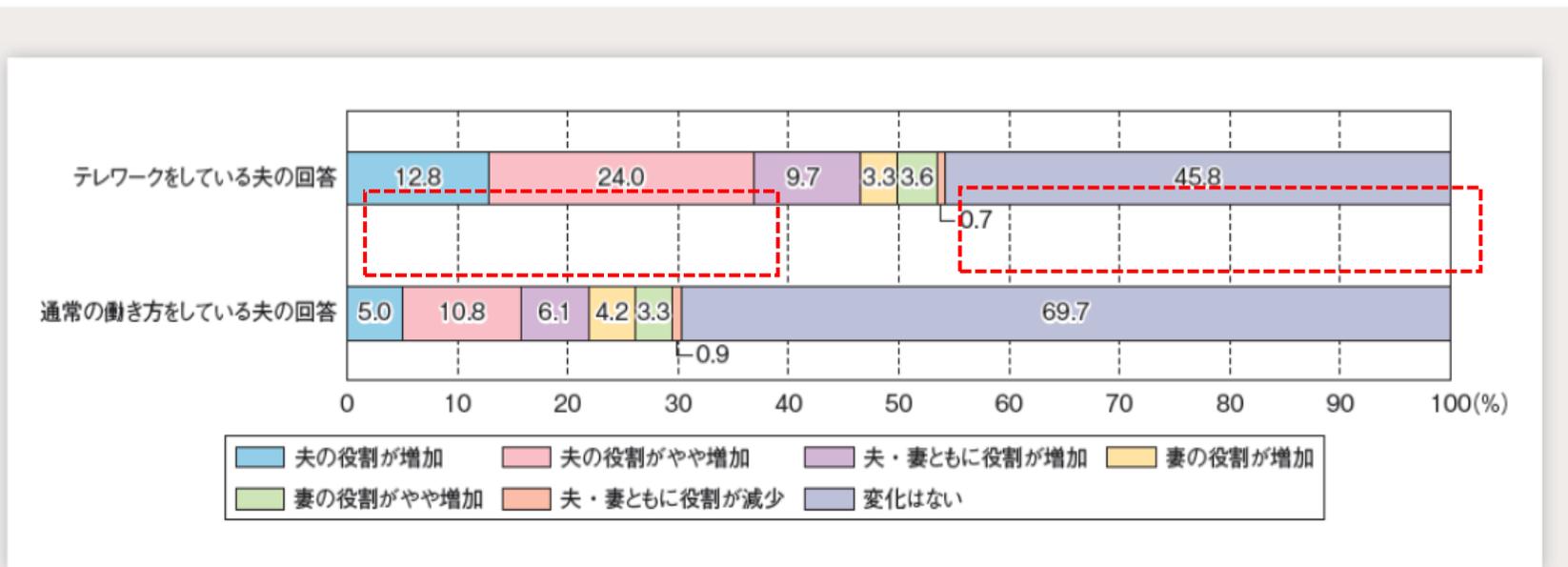
15→22年に比べて、父親の帰宅時間が早まっている（17-19時台が増え、21時-23時台が減る）。
家族みんなで「ほとんど毎日」食事する機会が増えている。



テレワークをしている夫の役割は増加

図表10

新型コロナウイルス感染症拡大前（2019年12月）からの夫の働き方（テレワーク実施）と家事・育児の役割分担の変化（2021年4－5月）

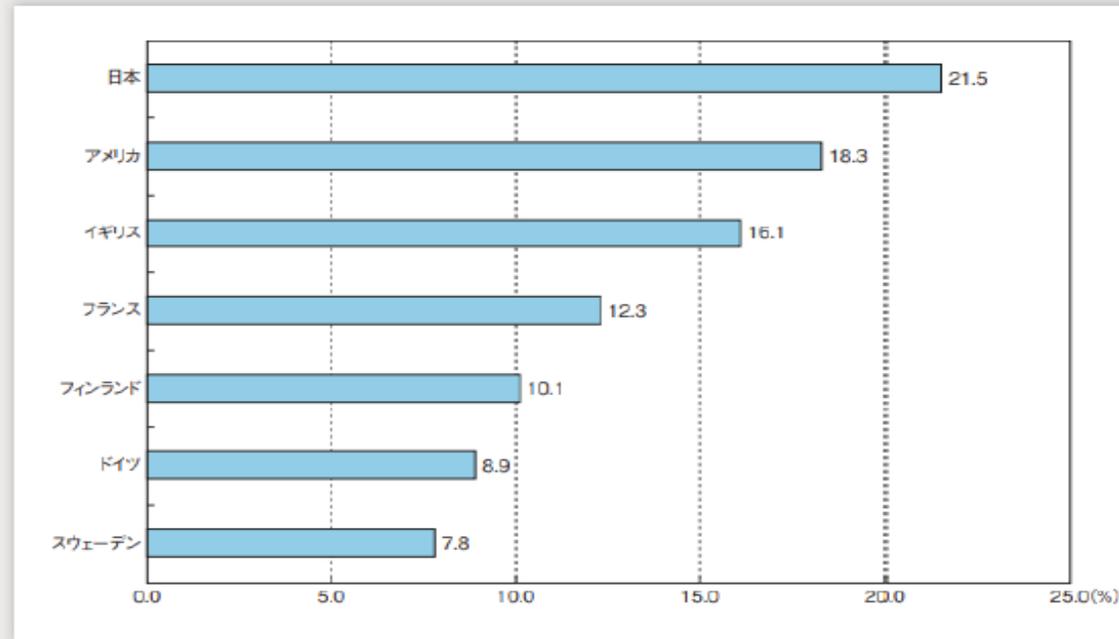


資料：内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」を基に作成。

- 1 内閣府子ども・子育て本部「第4回少子化社会対策大綱の推進に関する検討会」（2022年2月7日）労働政策研究・研修機構 堀副統括研究員資料を参照。

日本の男性は、長時間労働の割合が高い

第1-1-26図 男性就業者の長時間労働の割合（国際比較）



資料：労働政策研究・研修機構「データブック国際労働比較2022」（2022年）を基に作成。

- 注：1. ここでいう長時間とは、ILOSTATの労働時間別就業者統計において、本表掲載国に共通する最長の区分である週49時間以上を指す。原則、全産業、就業者（パートタイムを含む）が対象。
2. 日本、アメリカ、フランス、フィンランド、ドイツ、スウェーデンは2020年、イギリスは2019年のデータである。
3. アメリカは16歳以上が対象。
4. イギリス、フランス、ドイツ、フィンランド、スウェーデンは、フルタイム及びパートタイム労働者が対象。

結果②

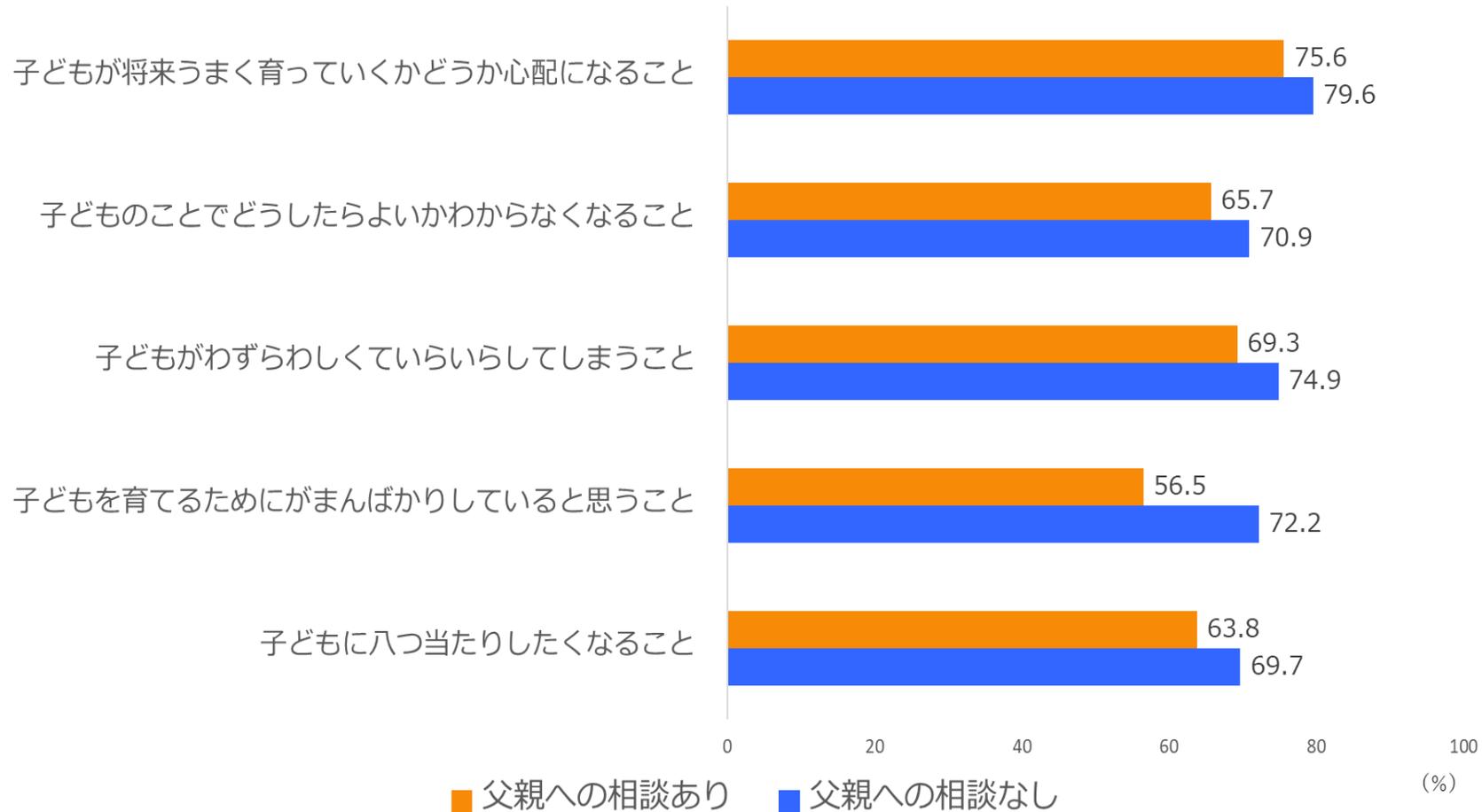
父親のサポート

- ・ 平日の子育て分担・家事分担は、共働き世帯でも母親の分担は多い
- ・ **父親が悩みを聞いてくれる家庭は、母親の否定的感情は軽減**

結果② 父親の関与

「父親が育児の悩みの相談にのってくれる」場合、母親の子育て否定感は低い

父親への相談有無別にみた母親の子育て否定感



★「父親が育児の悩みの相談にのってくれる」に対して、「とてもそう思う」「そう思う」を「父親への相談あり」(n=2419)、「あまりそう思わない」「全然そう思わない」を「父親への相談なし」(n=876)とした。

結果③

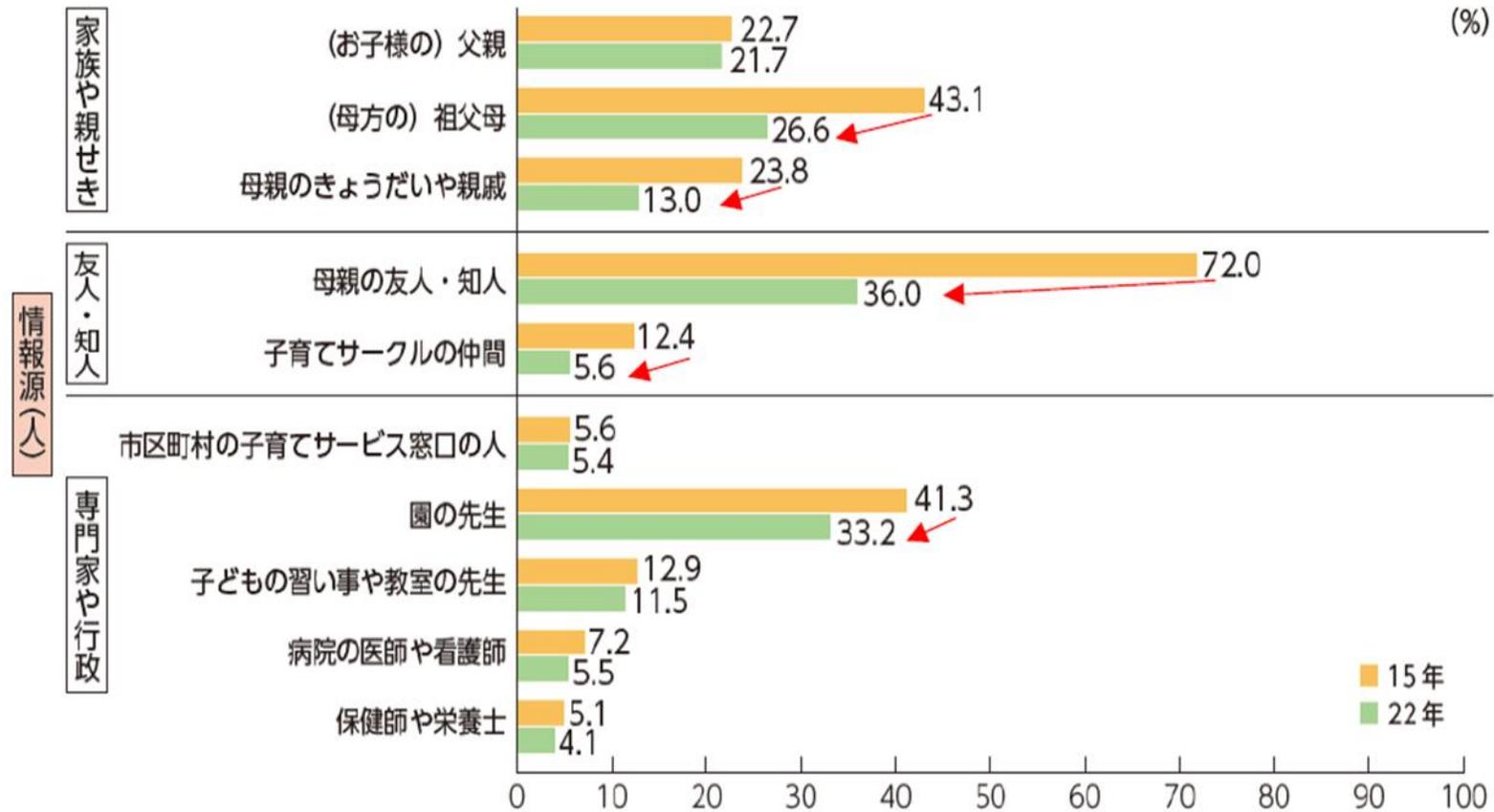
子育てサポート

- 「母親の友人・知人」「祖父母」から教育やしつけの情報を得ることが減っている
- SNS中心に子育て情報を収集している
- 母親が家を空けるとき、子どもの面倒を見てくれる人・機関が減少

結果③ しつけや教育の情報源（人）

しつけや教育の情報源は、「母親の友人・知人」「祖父母」が大幅に減っている。

しつけや教育の情報源（人）（経年比較）

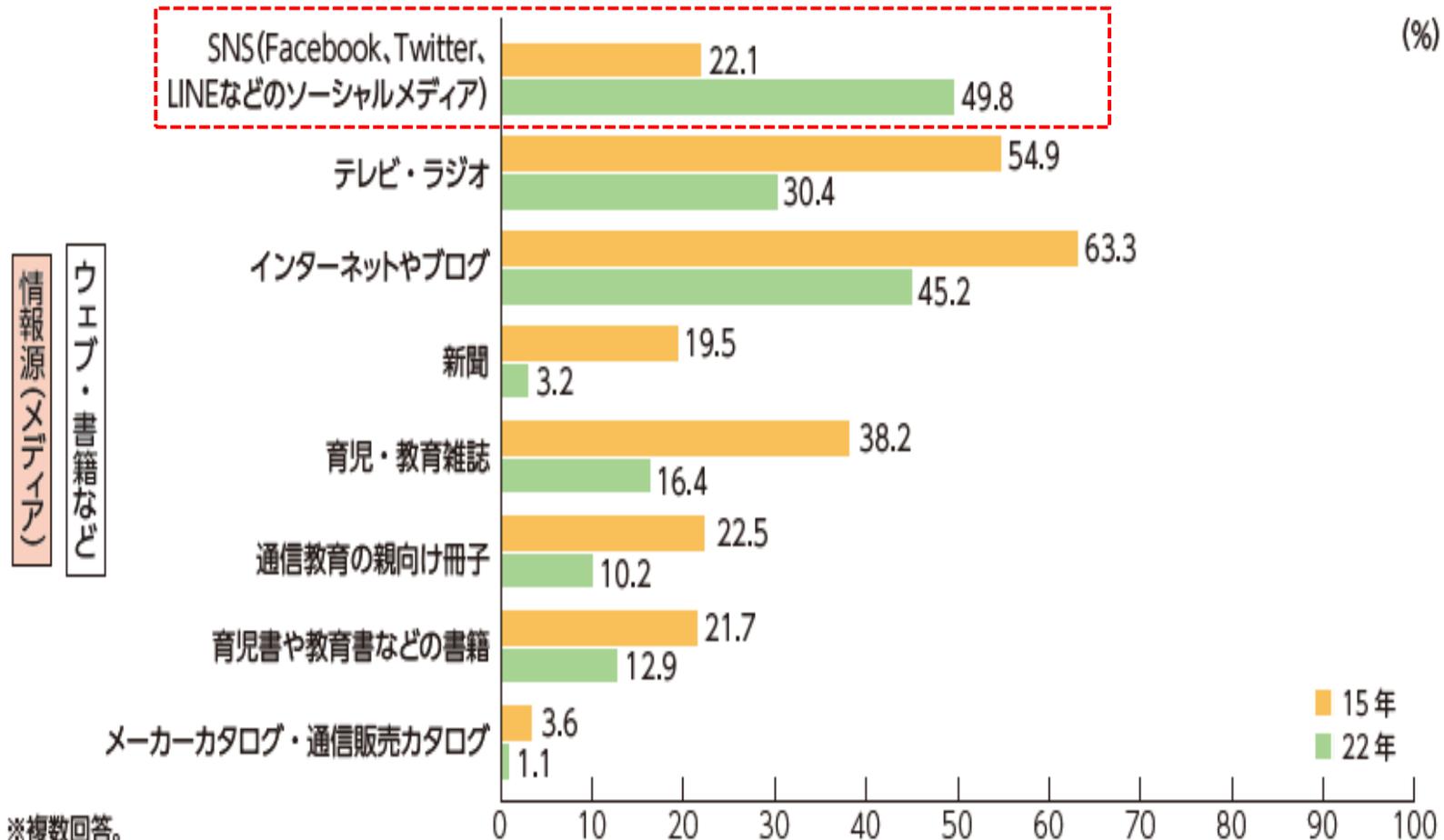


※ 2015年からたずねている項目。
 ※ 複数回答。
 ※ 「その他」を含む15項目の中から10項目を図示。

結果③ しつけや教育の情報源（メディア）

SNSの利用が増えている。

しつけや教育の情報源【メディア】(経年比較)



※複数回答。

※「その他」は図示していない。

結果③

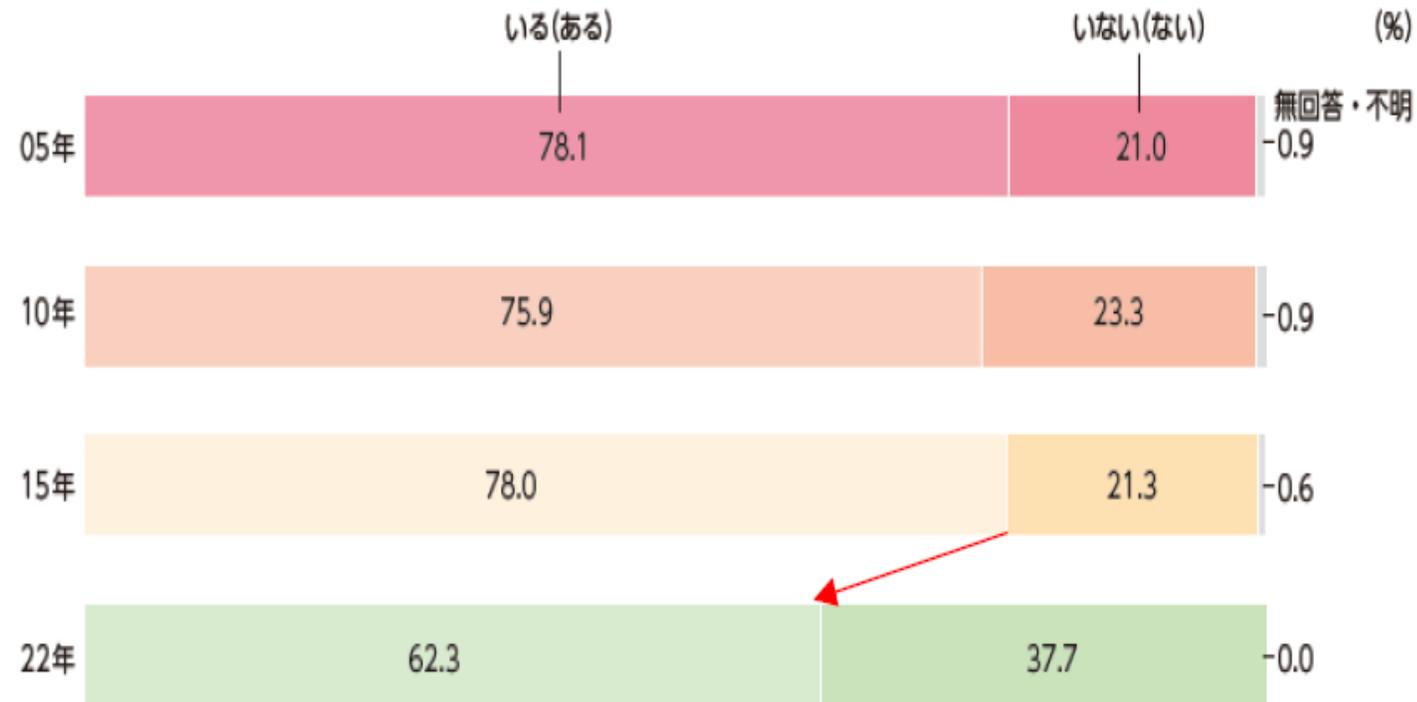
子育てサポート

- 「母親の友人・知人」「祖父母」から教育やしつけの情報を得ることが減っている
- SNS中心に子育て情報を収集している
- **母親が家を空けるとき、子どもの面倒を見てくれる人・機関が減少**

結果③ 子どもの面倒をみてくれる人・機関

母親が家を空ける時、子どもの面倒をみてくれる人・機関が「いる（ある）」が減少

家を空ける時、子どもの面倒をみてくれる人・機関の有無（経年比較）

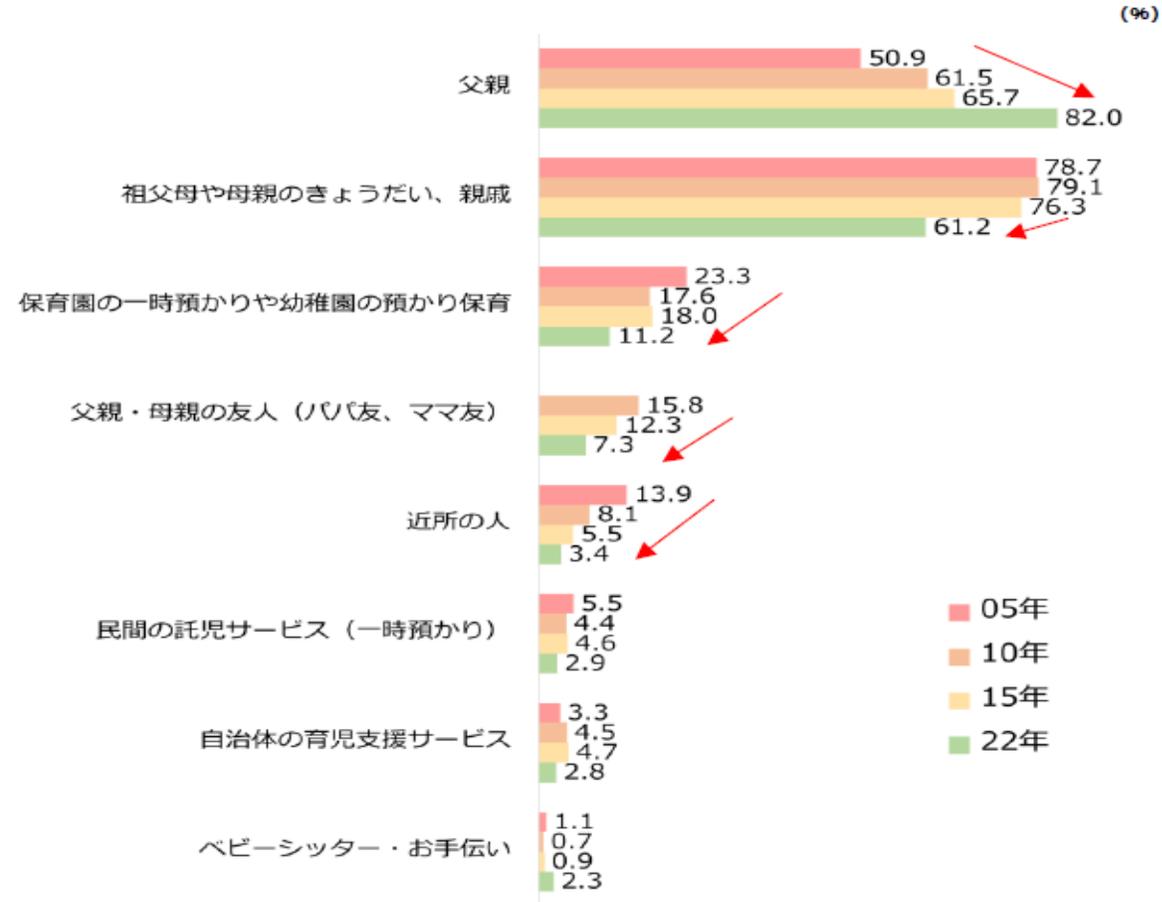


※ 2005年からたずねている項目。

結果③ 子どもの面倒をみてる人・機関

母親が家を空ける時、子どもの面倒をみるのは「父親」が中心となっており、父親以外のサポートが減っている。

家を空ける時、子どもの面倒をみてる人・機関（経年比較）



※ 2005年からたずねている項目。
 ※ 子どもの面倒をみてる人・機関がある（ある）と回答した人のみたずねている。
 ※ 複数回答。
 ※ 「父親・母親の友人（パパ友、ママ友）」は、10年調査以降の項目。
 ※ 「その他」は図示していない。

「幼児の生活アンケート」に関する情報をもっとご覧になりたい方は、こちらへ

ベネッセ教育総合研究所



<https://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=5803>

乳幼児・子育て研究

調査・研究データ

第6回 幼児の生活アンケート ダイジェスト版[2022年]

関連タグ: 乳幼児・子育て研究 研究者 教員 保護者 メディア

クリップする

B! 0 ツイート Pocket 0 いいね! 33 シェアする

このダイジェスト版について

ベネッセ教育総合研究所では、乳幼児の生活の様子・保護者の子育てに対する意識や実態を把握することを目的に、「幼児の生活アンケート」を行いました。この調査は、1995年より約5年ごとに実施しており、2022年は第6回となります。調査結果を経年比較することで、27年間の変化をたどることができる貴重な資料となっております。このダイジェスト版ではとくに注目したい調査結果を抜粋してご紹介しています。(全20ページ)

調査概要

調査テーマ
乳幼児の生活の様子、保護者の子育てに関する意識と実態

調査方法
第1回～第5回 郵送法(自記式アンケートを郵送により配布・回収)
第6回 WEB 調査法

報告書を一括ダウンロードする。
PDFダウンロード

Get ADOBE READER

乳幼児・子育て研究 TOP

研究室について

調査・研究データ

»テーマ別
»年度別

オピニオン

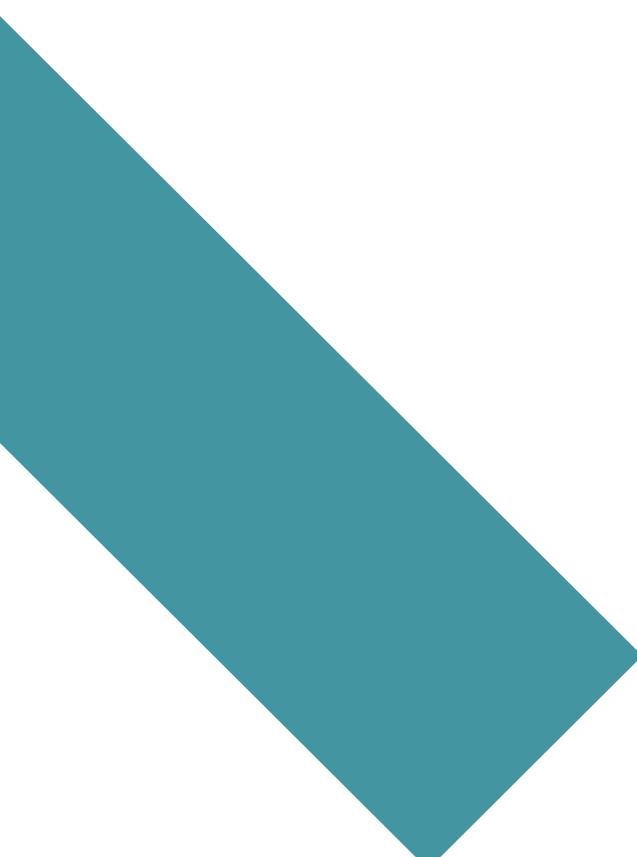
研究室トピックス

■グラフなどのデータをダイレクトに検索したい方

調査データの詳細検索

記事や調査結果の掲載・引用について

研究所について



ご清聴ありがとうございました
